

誌上行学講習会

高佐日煌上人

特に青少年の不良化が目立って来たように、社会も手を焼いているようであり、これは戦争という国家の動乱がそうしたこと、誤まった自由主義の行きすぎがはやっただことが、大きな原因になって、いふことも事実であります。きたないゴミを置き捨てるとハエが発生する。ハエが出てからハエたたきや、くすりをまいてこれを殺すというのではない。先ずきたないところをつくらない。先に結果をたらさない。どうもこの世の中は悪い結果をもたらす因がおびただしく在るよう、一人の悪人をつくるために社会そのものが、それを助長せしめて、いふのではないかとさえ考えなくてはならない。かたさえ考えなくてはならない。これから申し上げるのは、それらのあまり良からぬ、俗にいう四悪の心の話であります。人間の心の闘争心が深刻になり、墮落をいたします。修羅心になるのであります。そこで修羅心の地獄心。これは惨害斗争心といひまして相手方を傷つけなければやまないという極端な憎しみと、いきどおりから争いをするという状態であり、相手をして世間に顔向けの出来ないよう、腕の一本もへしおつてやるといふような気持であります。

修羅心の餓鬼心。これは貪欲斗争心のこと。普通の欲ならば争いにならず、むもの。例えば兄弟が親の遺産をめぐる争い。昔の法をすれば長男が親の遺産を一人が相続することになれば長男が親の遺産を一人が相続すること。達にも充分に分け与えたいとおもう人情がありましよう。生前そのような気持を弟妹達にいささかももらして、急に亡くなった場合、長男は法律をたてに、遺産を一人じめようとする。しかし弟妹達も且て親はこう言っている。そこで斗争が起るのであります。このよる。そこで斗争が起るのであります。このよる。私に少年時代は京都府丹後の国大江山を向うに見る茅田というところにおりました。チリメンの産地ですが、その実相寺という寺で出家得度を十三歳までお世話になつておりました。その頃のことなのですが、或る時檀家の葬式に出ますと、私の頭をぶちにかかたり、酒乱に、おそろしい姿でわめきちらし、日本刀を振りまわしている人を見たり、この恐ろしい人はその家の長男だといふので、死んだ親の前で、あばれ弟妹達に、やがら欲を死んだ親の前で、あばれ弟妹達に、やがら欲斗争心はおそろしいものであります。

以下次号